

平成29年10月10日

農業技術センター技術普及部

標 題	放牧牛の宿敵「アブ」の捕獲装置「アブトラップ」を試作してみました
-----	----------------------------------

(ダイジェスト)

放牧場のアブを駆除する装置「NZ I トラップ」を試作しました。単純構造で、低予算で簡単に自作でき、放牧場でアブ類が捕獲されました。ただし、捕獲数は、天候や設置場所に左右されると実感しました。

夏の牧場では、放牧牛が尻尾でアブを休みなく追い払う姿をよく目にします。また、人を刺すことがあるので、畜産農家は、アブが増えないようご近所に気を遣います。

アブ駆除には、薬剤利用のほか「アブトラップ」という装置が使われます。そこで、文献調査(注)して「NZ I トラップ」を試作し、許可を得て飯南町内の放牧場に設置してみました。

材料のシートに園芸資材や不織布を再利用することで、安価に作成できました。また、アブを誘引する二酸化炭素は使わないのでランニングコストがかかりません。

アブトラップは、アブを見かける放牧場に設置しました。アブはトラップの内部に侵入すると光の射す方向へ移動して、ポリ袋の袋小路に行きつきます。多くを捕まえるには、放牧場の捕獲ポイントを探す必要があります。

トラップは2機作製して、捕獲の有無と耐久性をみました。捕獲数は、現地のアブの生息数と天候に左右されます。移動設置した結果、1週間で20～30匹の様々な羽虫の残骸が袋に残ったり、大型のウシアブが捕獲されたりしました。また、耐久性では、ミシン縫製の装置、ホチキス止めの装置のいずれも、2カ月間、風雨にも耐え、牛による破壊も受けませんでした。

今回の設置では、アブを一網打尽にする劇的効果は確認できませんでした。しかし、トラップの設置作業中、筆者にまとわりつくアブがトラップに飛び込む様子は面白く、簡単に作製できる装置ですので、放牧場に設置してみることをお勧めします。



NZ I トラップの本体

捕獲されたアブ類の残骸

強風後の損傷調査

注) 誘引性改良アブトラップの作製と捕獲試験, 東青地域県民局地域農林水産部青森家畜保健衛生所 [http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ao-kaho/files/26gyohatu\\_abu-trap.pdf](http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ao-kaho/files/26gyohatu_abu-trap.pdf)